

春シラスの漁況経過と秋シラスの予測

(1) 春シラス(2~7月)の漁況経過

今年の春シラスは、4月上旬に漁獲が始まりましたが、その後は低調に推移し、漁期末の7月17日以降に大洗～鹿島沖を中心に増加しました(図1)。漁獲量は1,017トン(7/30速報値)となり、前年(2,548トン)、過去5年平均(2,014トン)を大きく下回り、水産の窓3-No.4でお知らせした予測数量(1,300~1,800トン)からも大きく外れました(図2)。

これまで水産試験場では、春シラスは黒潮からの暖水波及により運ばれてきた卵や仔魚がシラス漁に結びつき、水温が高いほど漁獲量が増加すると考えてきました。今年の漁場水温は、平年よりもやや高めで推移し、シラス漁にとって好適な環境となりましたが、漁獲は低調に推移しました。また、近年は沖合に分布する卵が少ないにもかかわらず、春シラスが好調に推移する傾向がみられており、このことは、春シラスには水温以外の要因が考えられ、特に知見の少ない本県地先(30m以浅)に生息するカタクチイワシの産卵状況が影響していることが考えられました。現在、水産試験場では、このカタクチイワシの産卵状況の調査・研究に取り組んでいます。

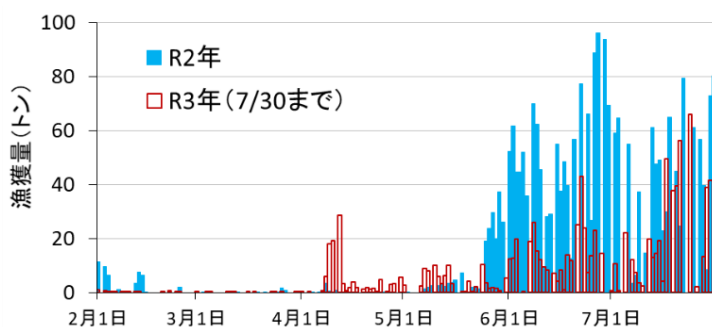


図1. シラス日別漁獲量の推移

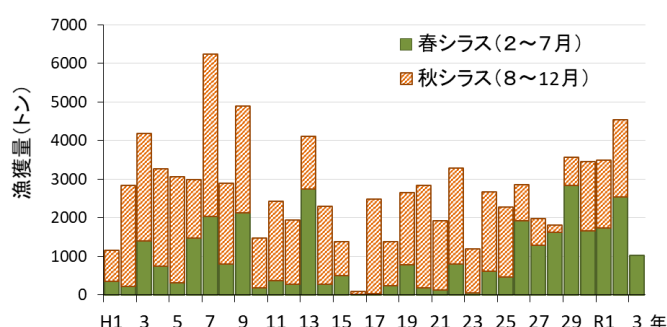


図2. シラス漁獲量の推移

(2) 秋シラス(8~12月)の予測

秋シラスの漁獲量は8~9月に多く、10月以降は減少傾向にあります(図3)。また、8~9月の漁獲量は、7月の水温が高いほど減少する傾向にあり、この関係を基に今年7月の水温から8~9月の漁獲量を予測すると650トンとなります(図4)。さらに、10~12月の漁獲量は、8~9月の漁獲量と正の相関関係にあることから、650トンを基に予測すると250トンとなります。

以上から、今年の秋シラス(8~12月)の合計漁獲量は **900トン程度(前年1,986トン、過去5年平均1,261トンを下回る)**と予測します。

7月の水温が低いほど8~9月の漁獲量が増加する関係については、親潮系冷水域のカタクチイワシ卵は水温が15.0~15.5℃の海域に多いという知見から、本県沿岸に親潮系冷水が差し込むような海況になると卵・仔魚が多く分布するようになり、その後のシラス漁につながる可能性が考えられます。

(回遊性資源部 高橋 佑太郎)

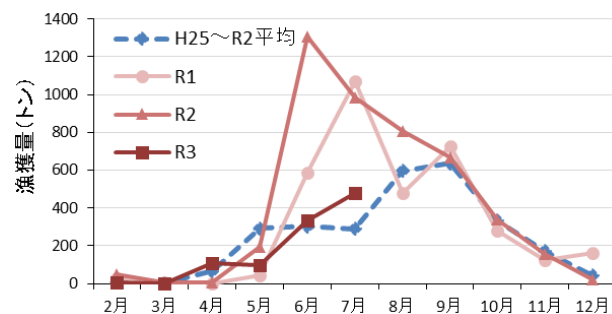


図3. シラス月別漁獲量の推移

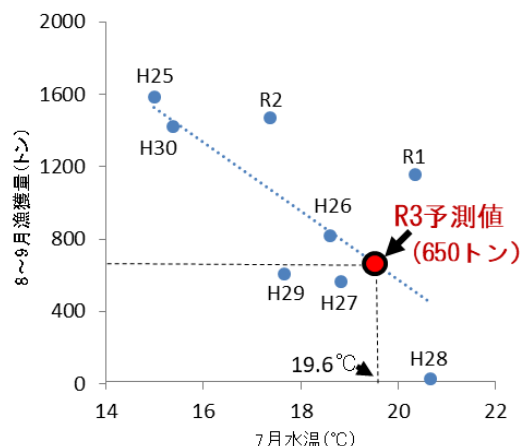


図4. 7月海洋観測(会瀬~犬吠埼水深30m地点)10m深水温平均値と8~9月シラス漁獲量の関係(H25~R2年)